

西洋政治思想史Ⅱ

科目ナンバリング HIT-206
選択 2単位

1. 授業の概要(ねらい)

ルネサンスから市民革命期を経てナチス時代に至る、西洋の代表的な思想家・芸術家を取り上げ、それぞれの時代と政治思想とのかかわりと考察する。

前半はルネサンス時代フィレンツェの芸術家を取り上げ、彼らの芸術作品がローマ教皇やトスカナ大公といった権力者の注文に応じて、どのような政治的意図を作品に込めたかを読み解く。後半はルネサンスおよびイギリス革命期の思想家を取り上げ、その代表的な著作を時代とのかかわりの中で読解する。最後にナチズムの基盤について多方面から検討する。

2. 授業の到達目標

思想家の著作を正確に読解し、それを的確に要約し、その時代に照らし合わせて解釈できること

図像に込められた政治思想を、当時の歴史的文脈に照らして読み取り、その内容を的確に表現できること

図像史料の客観的な作品記述ができること

3. 成績評価の方法および基準

中間試験40%、期末試験60%

4. 教科書・参考文献

参考文献

森田義之 メディチ家 講談社現代新書

5. 準備学修の内容

前回の授業のプリントとノートを読み直しておくこと

6. その他履修上の注意事項

毎回小さな課題を出して答案を書いてもらい、その提出をもって出席を認定する

7. 授業内容

【第1回】 オリエンテーション、フィレンツェにおけるメディチ家の支配と芸術保護活動

【第2回】 ローマ教皇庁におけるラファエロのフレスコ画

【第3回】 フィレンツェ共和政とミケランジェロ

【第4回】 トスカナ大公コジモ1世の学問・芸術政策
ヴァザーリの生涯と芸術活動

【第5回】 ヴェッキオ宮殿五百人広間の図像分析

【第6回】 前半のまとめと中間試験

【第7回】 (オンライン授業)
エラスムスの思想とルネサンス・宗教改革

【第8回】 答案の返却と講評、書き直しの指示
カルヴァンの宗教改革とカステリオンの寛容論

【第9回】 ホップズ『リヴァイアサン』読解

【第10回】 ロック『統治二論』読解

【第11回】 フランス革命の肖像:ダヴィッドの絵画とナポレオン

【第12回】 ナチズムの心理的基盤:フロム『自由からの逃走』読解

【第13回】 ゲルニカ空襲はなぜ起きたか
ピカソ「ゲルニカ」が描いたもの

【第14回】 「悪の凡庸さ」:アイヒマン裁判とハンナ・アーレント

【第15回】 後半のまとめと期末試験